

「札幌市温暖化対策推進計画・
札幌市エネルギービジョン」進行管理報告書
(2019年度速報値・2017年度確定値)

2021年12月

目次

1	計画の目的と目標	．．． 3
2	札幌市温暖化対策推進計画の進捗状況	．．． 4
3	札幌市エネルギービジョンの進捗状況	．．． 8
4	市民アンケート調査結果	．．． 10

1 計画の目的と目標

● 札幌市エネルギービジョン（2014年10月策定）●

エネルギーの有効利用が進んだ社会と脱原発依存社会を目指した持続可能なまちづくりの推進を目的に策定

熱利用
エネルギー
目標

2022年度に2010年度比で**15%削減**
(年平均1%以上の削減)

電力
目標

2022年度に2010年度の**原子力発電分の50%を省エネ、再エネ、分散電源で転換**
(再エネは、市外からの供給を含む)

● 札幌市温暖化対策推進計画（2015年3月策定）●

東日本大震災に伴う福島第一原発事故以降のエネルギーや温暖化対策に関する状況の変化を踏まえ、温暖化対策を一層推進することを目的に策定

長期
目標

2050年に1990年比で**80%削減**
<目標排出量：187万t-CO₂>

中期
目標

2030年に1990年比で**25%削減**
<目標排出量：701万t-CO₂>

2.1 札幌市温暖化対策推進計画の進捗状況（中期目標）

2019年度の温室効果ガス総排出量の速報値は1,121万t-CO₂と、電力排出係数の改善などにより、前年度速報値^{注1}と比べ3.0%(34万t-CO₂)減少しています。札幌市温暖化対策推進計画策定時の最新値であった2012年度比15.2%(201万t-CO₂)減、基準年である1990年度比20.0%(187万t-CO₂)増となっています。

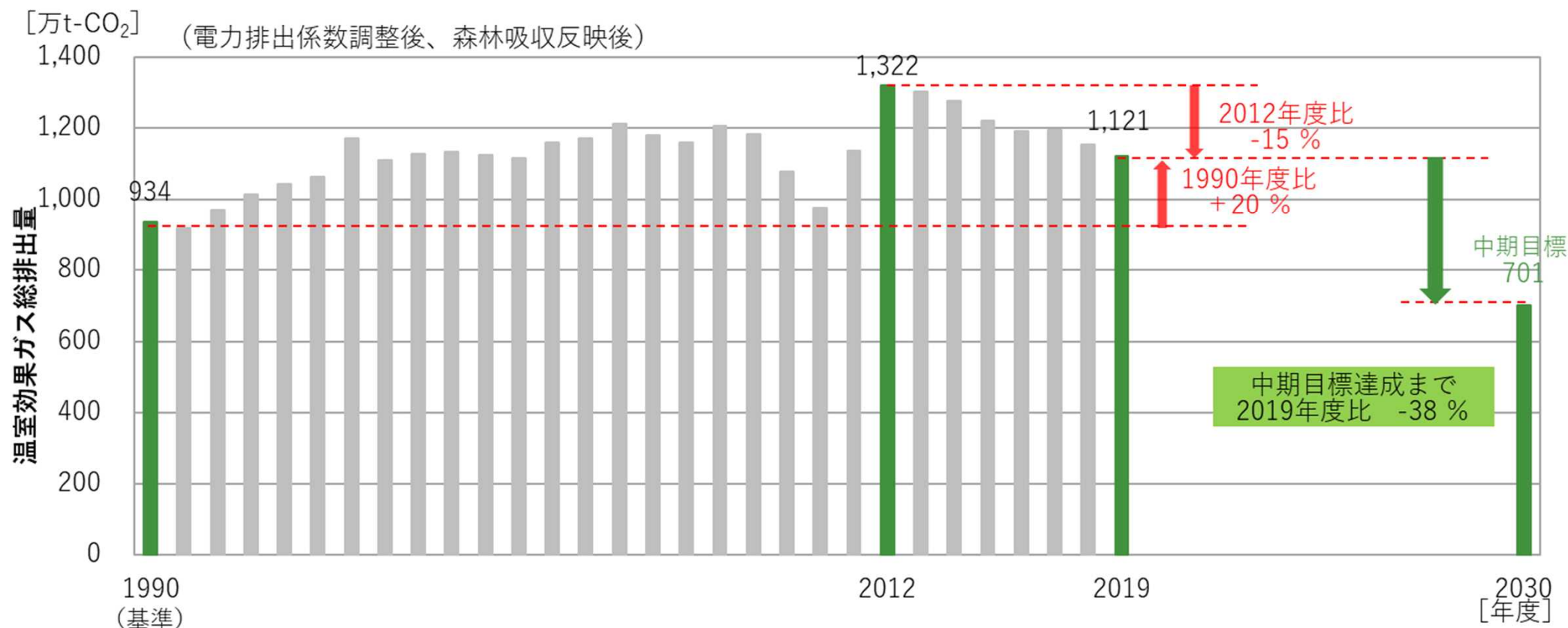


図 温室効果ガス総排出量の推移

注1：算出年度の統計値が未公表の場合、過年度の値で代用し速報値を算出しているため、確定値とは異なる場合があります。また、値は四捨五入しているため、各部門の合計値と全体値は一致しないことがあります。

2.2 札幌市温暖化対策推進計画の進捗状況（排出量内訳）

市内で排出された温室効果ガス排出量の内訳は二酸化炭素が約98%を占めており、二酸化炭素排出量の部門^{注2}別では、家庭・業務・運輸の3部門で全体の約9割となっています。また、エネルギー種別内訳では、電力が約5割を占めています。

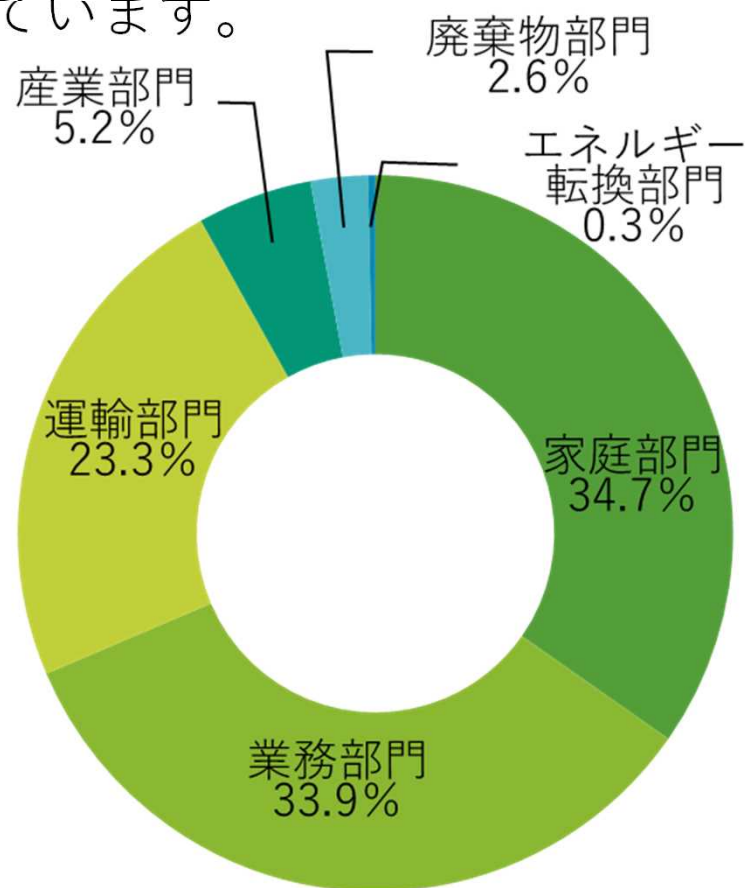


図 二酸化炭素排出量の部門別内訳

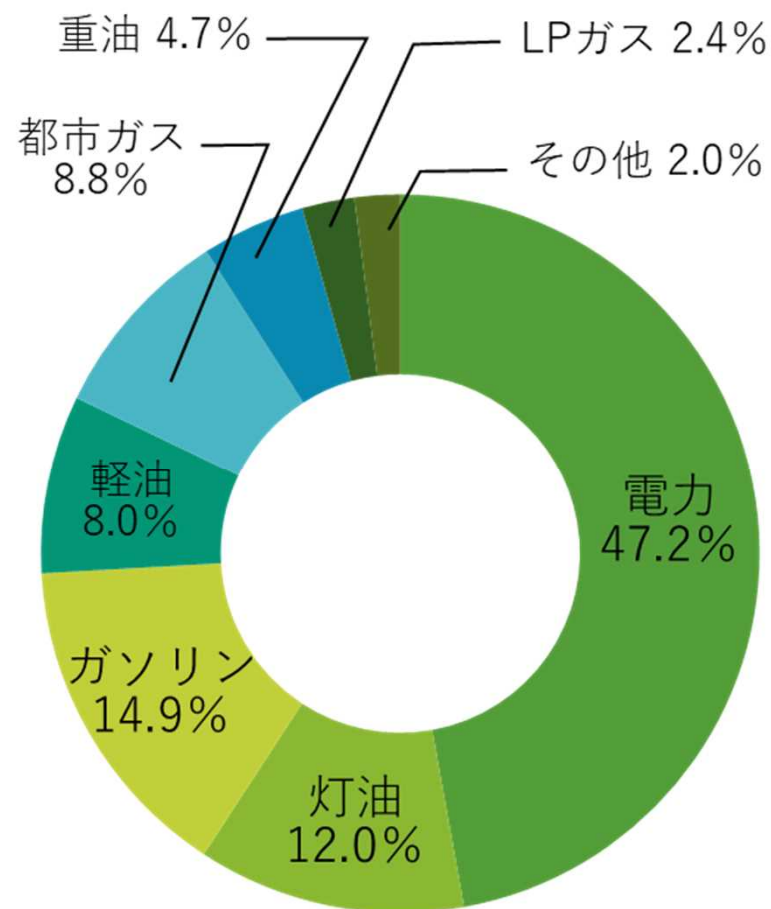


図 二酸化炭素排出量のエネルギー種別内訳

注2：札幌市温暖化対策推進計画では、家庭部門、産業部門、業務部門、運輸部門、森林吸収、廃棄物部門、エネルギー転換部門に分類しています。

2.3 札幌市温暖化対策推進計画の進捗状況（部門別排出量推移）

家庭部門、業務部門の二酸化炭素排出量は、節電や省エネの取組、電力排出係数の影響などにより2012年度をピークに減少しています。

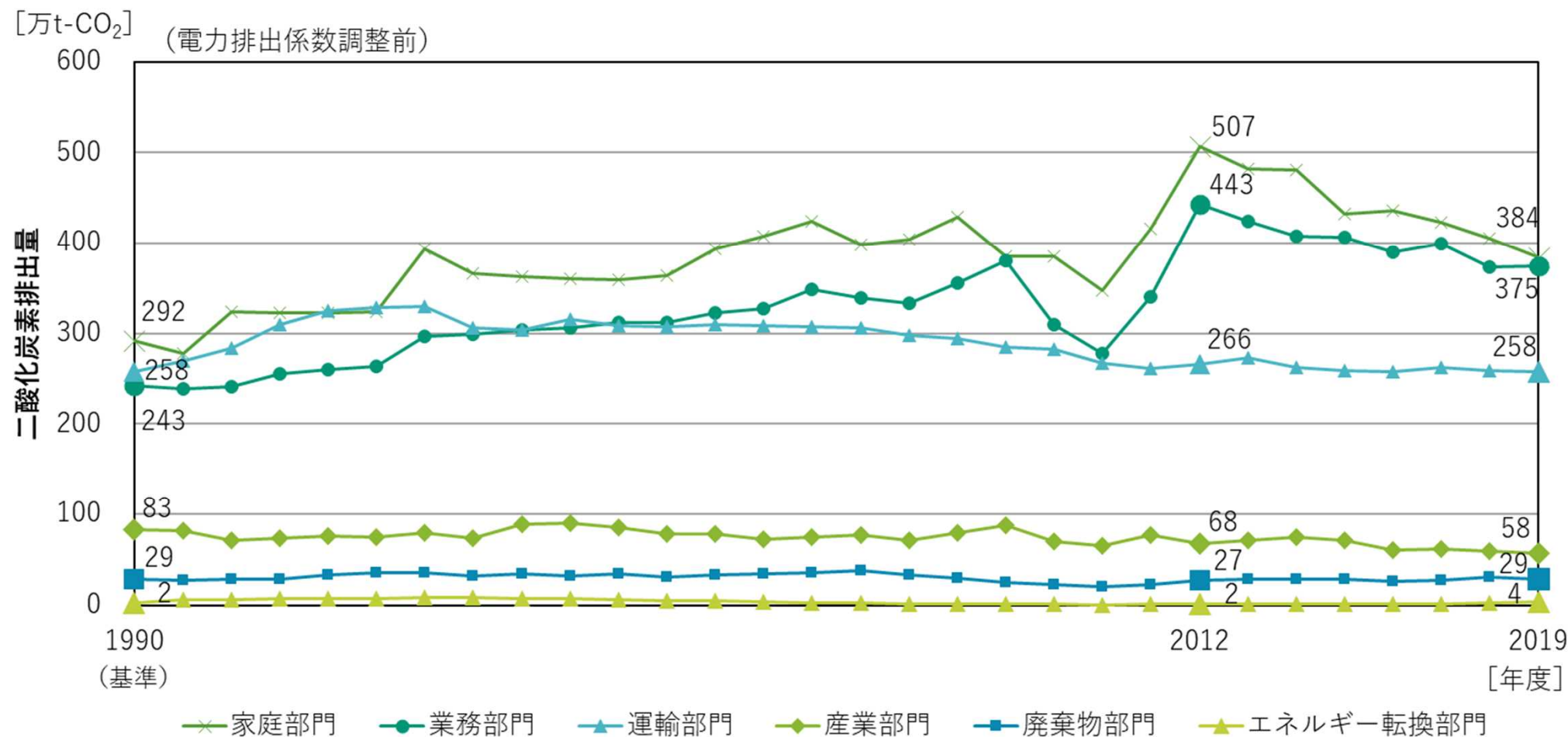


図 二酸化炭素の部門別排出量推移

2.4 札幌市温暖化対策推進計画の進捗状況（成果指標達成状況）

社会像	成果指標	2012年（基準）	2019年（現状）	傾向	2030年（目標）
家庭	1.新築戸建て住宅の札幌版次世代住宅基準の適合割合	19%	47%	➡	100%
	2.全世帯に対する高効率給湯機器設置の割合	3%	9%	➡	87%
	3.全世帯に対する高効率暖房機器設置の割合	3%	8%	➡	71%
	4.家庭における太陽光発電の導入量	1.4万kW	4.1万kW	➡	53.8万kW
	5.家庭用分散型電源システムによる発電量	0.02億kWh	0.1億kWh	➡	1.9億kWh
	6.環境配慮行動の実践率	61%	64%	➡	90%
産業・業務	7.事務所・工場などにおける太陽光発電の導入量	0.4万kW	2.0万kW	➡	8.1万kW
	8.事業用分散型電源システムによる発電量	1.7億kWh	3.0億kWh	➡	4.3億kWh
	9.産業・業務部門の電力需要量	56.5億kWh	58.0億kWh	↘	51.4億kWh
運輸	10.次世代自動車の導入台数	4万台	15.5万台	➡	31万台
	11.エコドライブの実践率（乗用）	15%	36%	達成	25%
	12.エコドライブの実践率（貨物）	15%	33%	➡	40%
	13.公共交通に対する満足度	75%	67%	↘	90%
みどり	14.保全されているみどりの面積	21,422ha	21,633ha	➡	21,800ha
	15.ペレットストーブの導入台数	200台	530台	➡	10,000台
廃棄物	16.焼却ごみの排出量	43.8万トン	43.9万トン	↘	41.0万トン
	17.ごみのリサイクル率	27%	25.7%	↘	30%
エネルギー	18.太陽光による発電量	0.2億kWh	0.6億kWh	➡	6.5億kWh
	19.分散型電源システムによる発電量	1.7億kWh	3.1億kWh	➡	6.2億kWh
	20.都心における地域熱供給への接続建物数 （建替えによる一時離脱も含む）	106棟	98棟	↘	124棟
	21.市域の電力需要量	94.0億kWh	92.2億kWh	➡	80.4億kWh

➡:2012年より改善 ↘:2012年より悪化

図 成果指標達成状況

3.1 札幌市エネルギービジョンの進捗状況（熱利用エネルギー目標）

熱利用エネルギー消費量は変動しながらも減少傾向で推移しており、2019年度は51,498TJとなっています。これは前年度と比べて2.1%(1,065TJ)の増加、札幌市エネルギービジョンの基準年である2010年度と比べて12.1%(7,099TJ)の削減となっています。

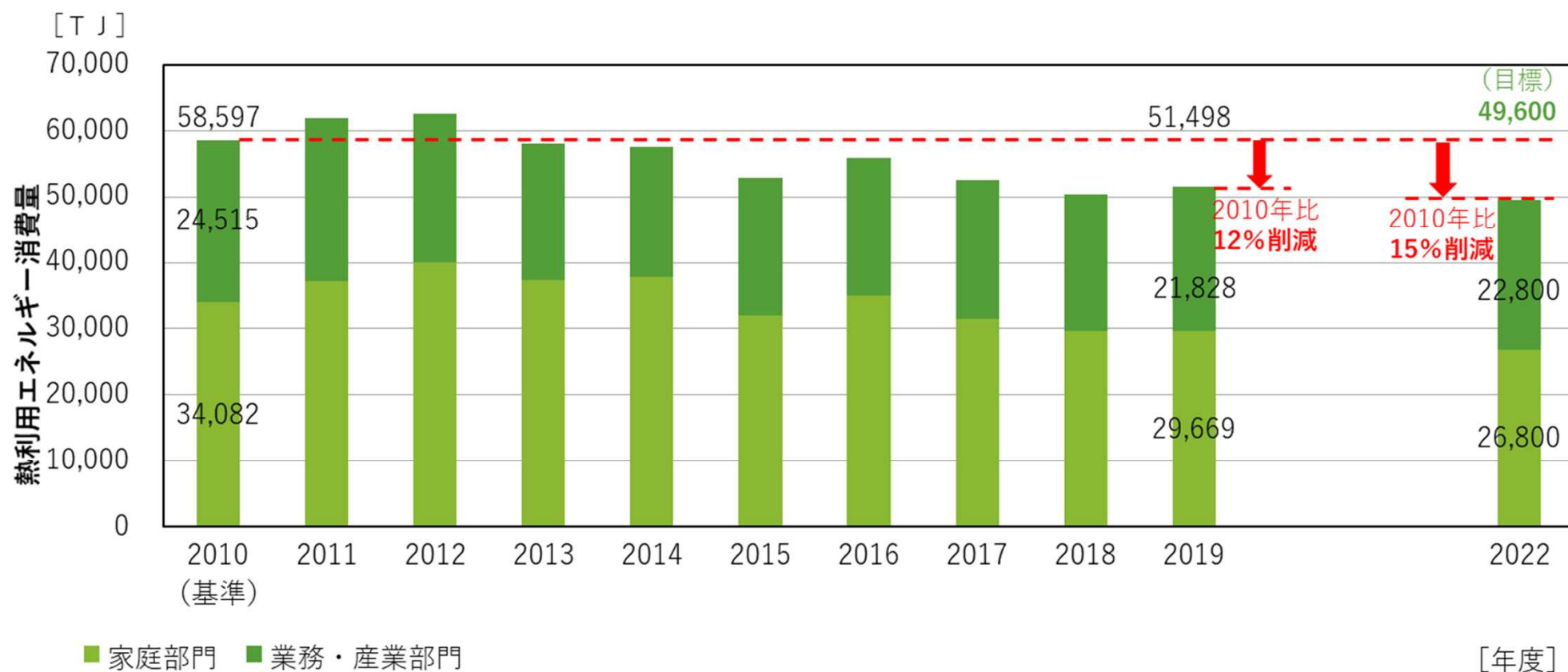


図 熱利用エネルギー消費量の推移と熱利用エネルギー目標

3.2 札幌市エネルギービジョンの進捗状況（電力目標）

再エネ及び分散電源^{注3}の導入や省エネにより、エネルギー転換は進んでおり、2019年度の転換量は10.6億kWhとなっています。これは前年度と比べて0.2億kWh減、2010年度の原子力発電による発電量41.1億kWhの25.9%に相当し、2022年度の転換目標値20.8億kWhに対する進捗率は51.0%となっています。

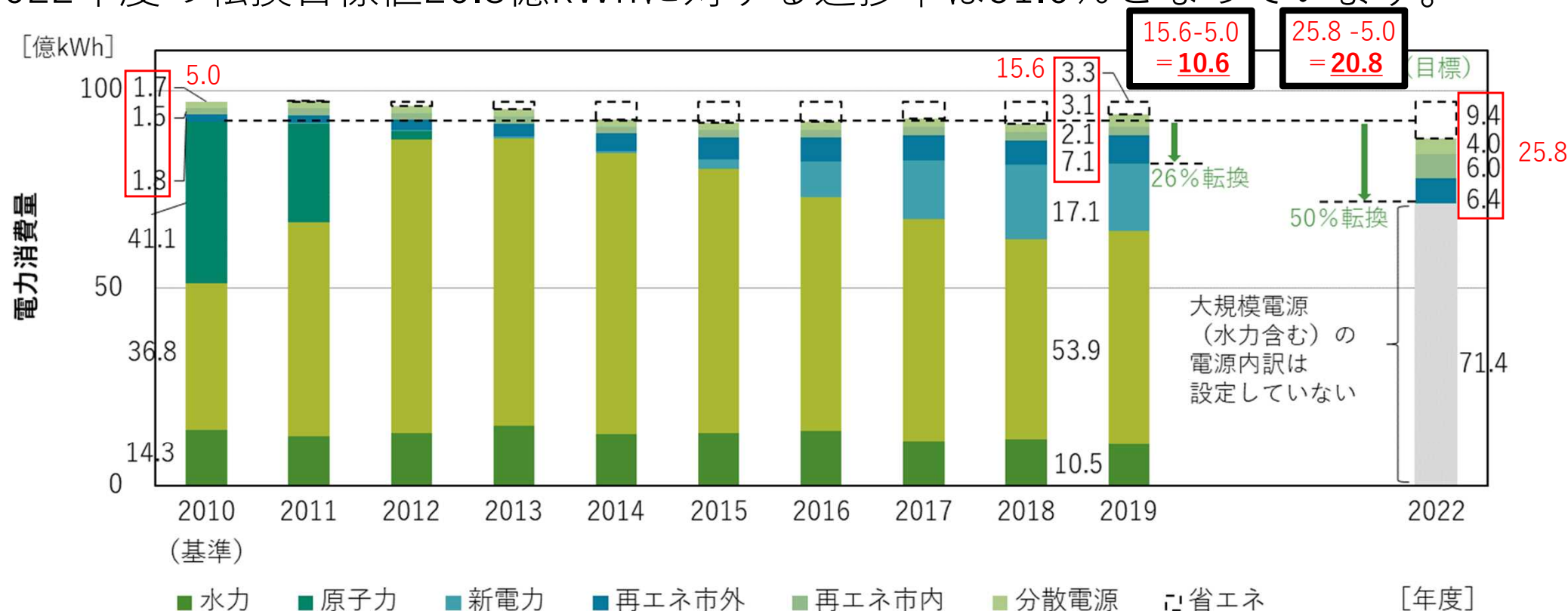


図 電力消費量の推移と電源構成、電力目標

注3：札幌市エネルギービジョンでは、分散電源を「コージェネレーションシステム」、「燃料電池」、「蓄電池」としています。

4.1 市民アンケート調査結果概要

●調査対象

住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民3,000人

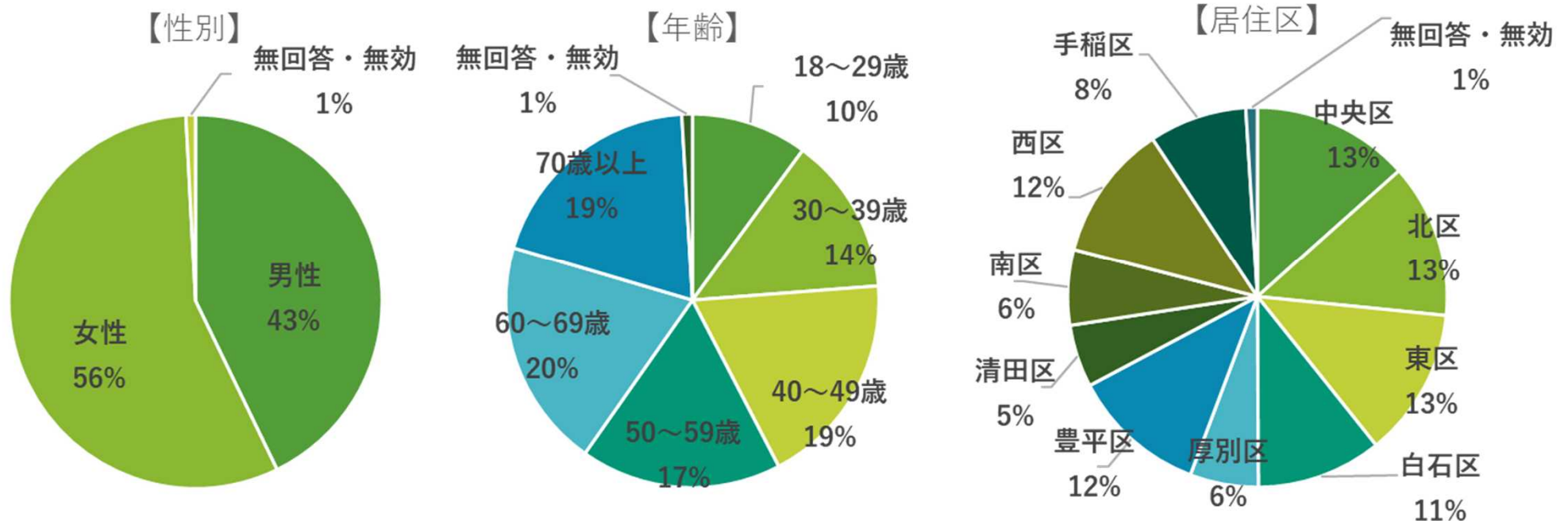
●調査期間

令和2年10月23日～11月27日

●有効回答数

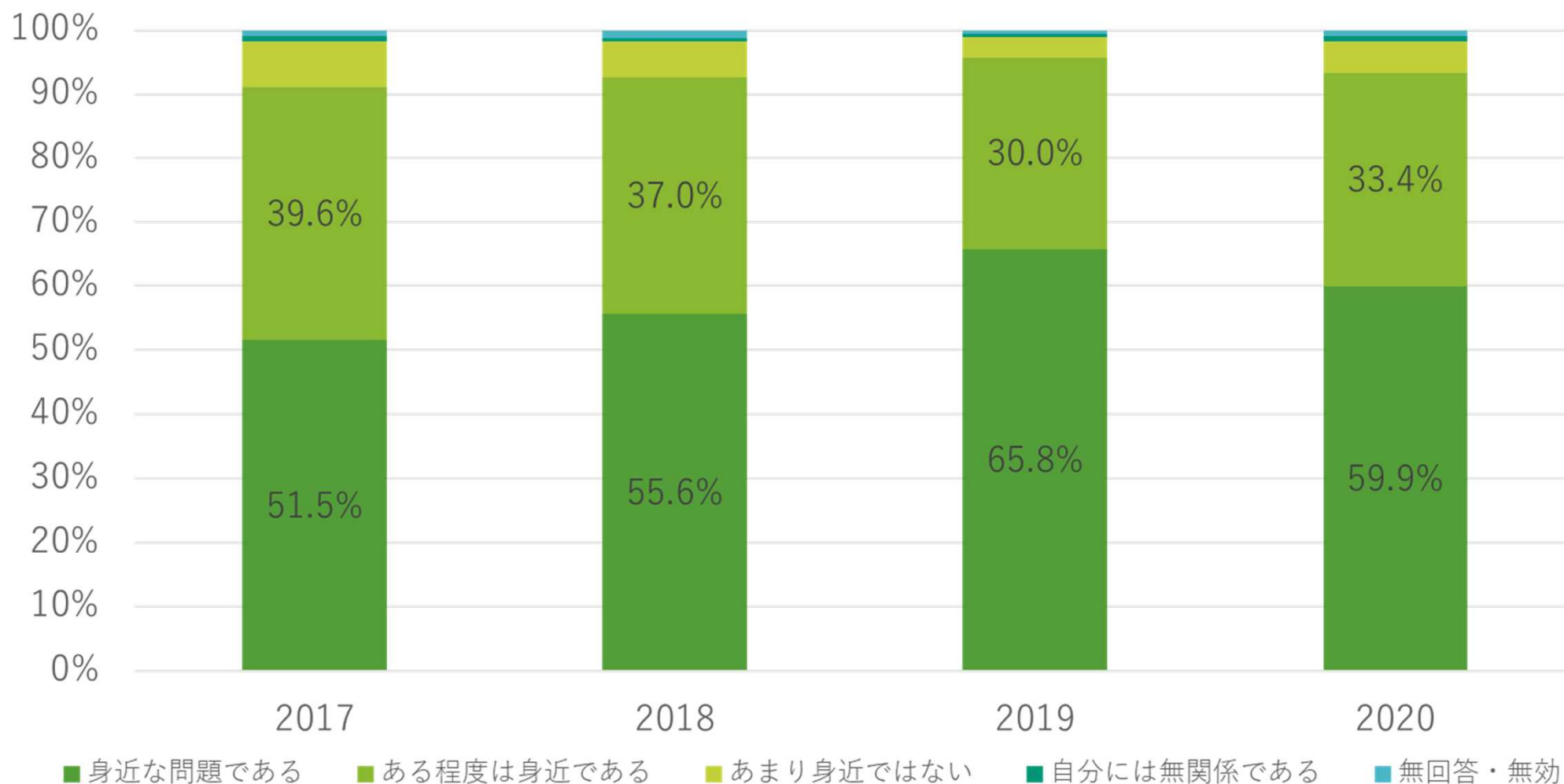
1,320人（回収率44.0%）

●回答者の主な属性



4.2 市民アンケート調査結果（気候変動に関する認識）

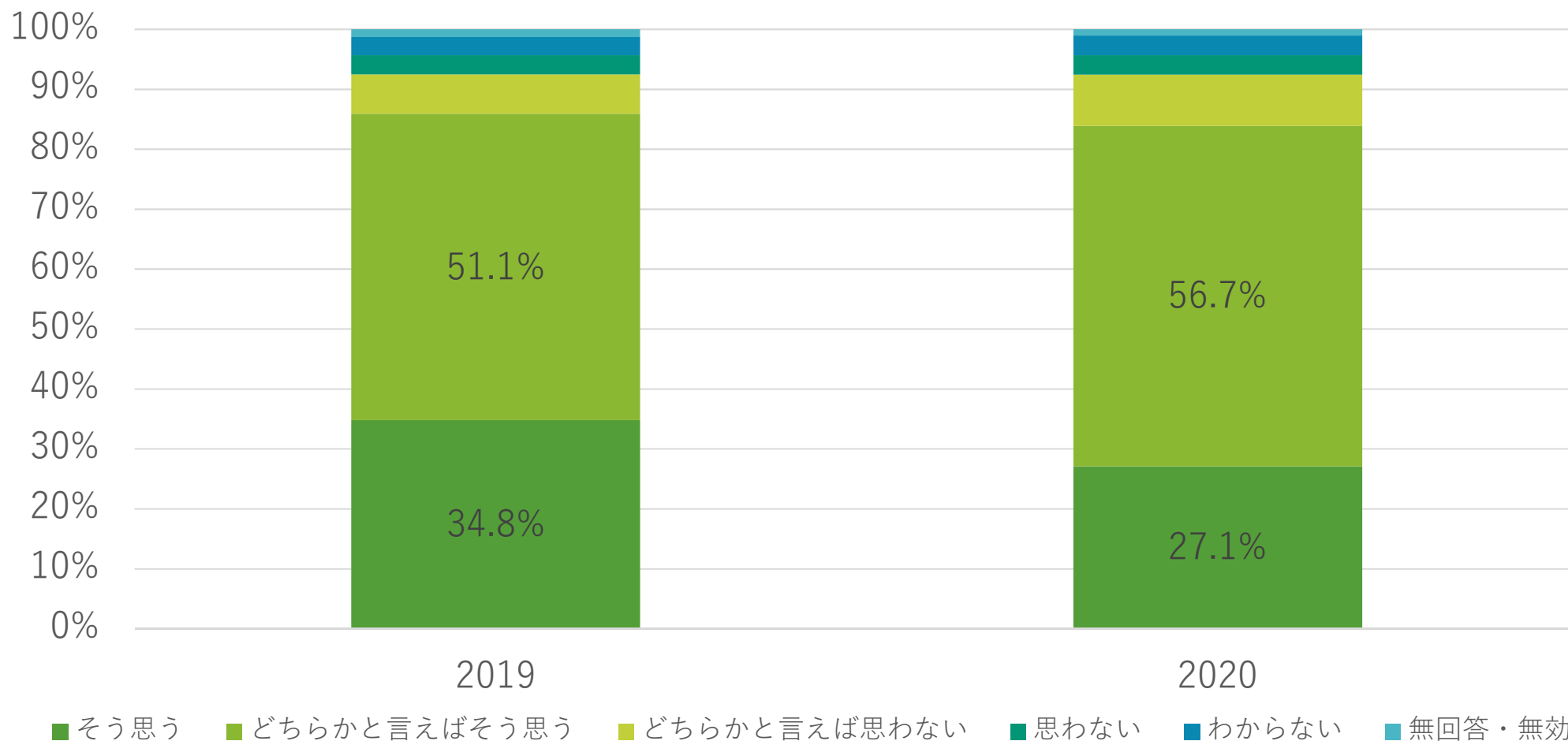
問 あなたは「地球温暖化による気候変動」を身近な問題だと思っていますか。



「身近な問題である」の割合が6割程度となっています。

4.3 市民アンケート調査結果（生活習慣の転換に関する認識）

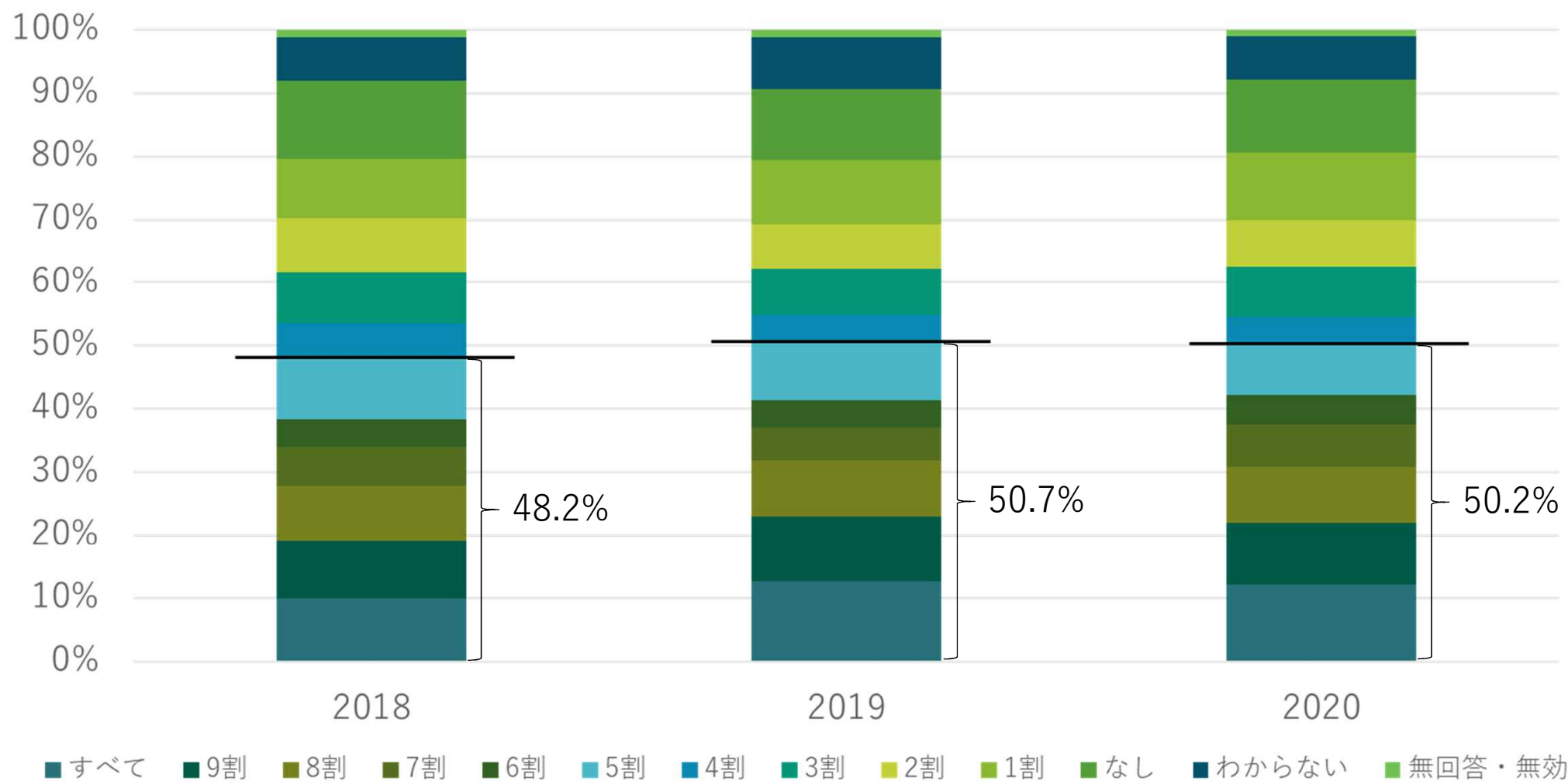
問 温暖化や気候変動の進行を食い止めるために、自身の暮らしや習慣を変えていかなければならないと思いますか。



「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計で8割以上となっています。

4.4 市民アンケート調査結果（LED照明の普及状況）

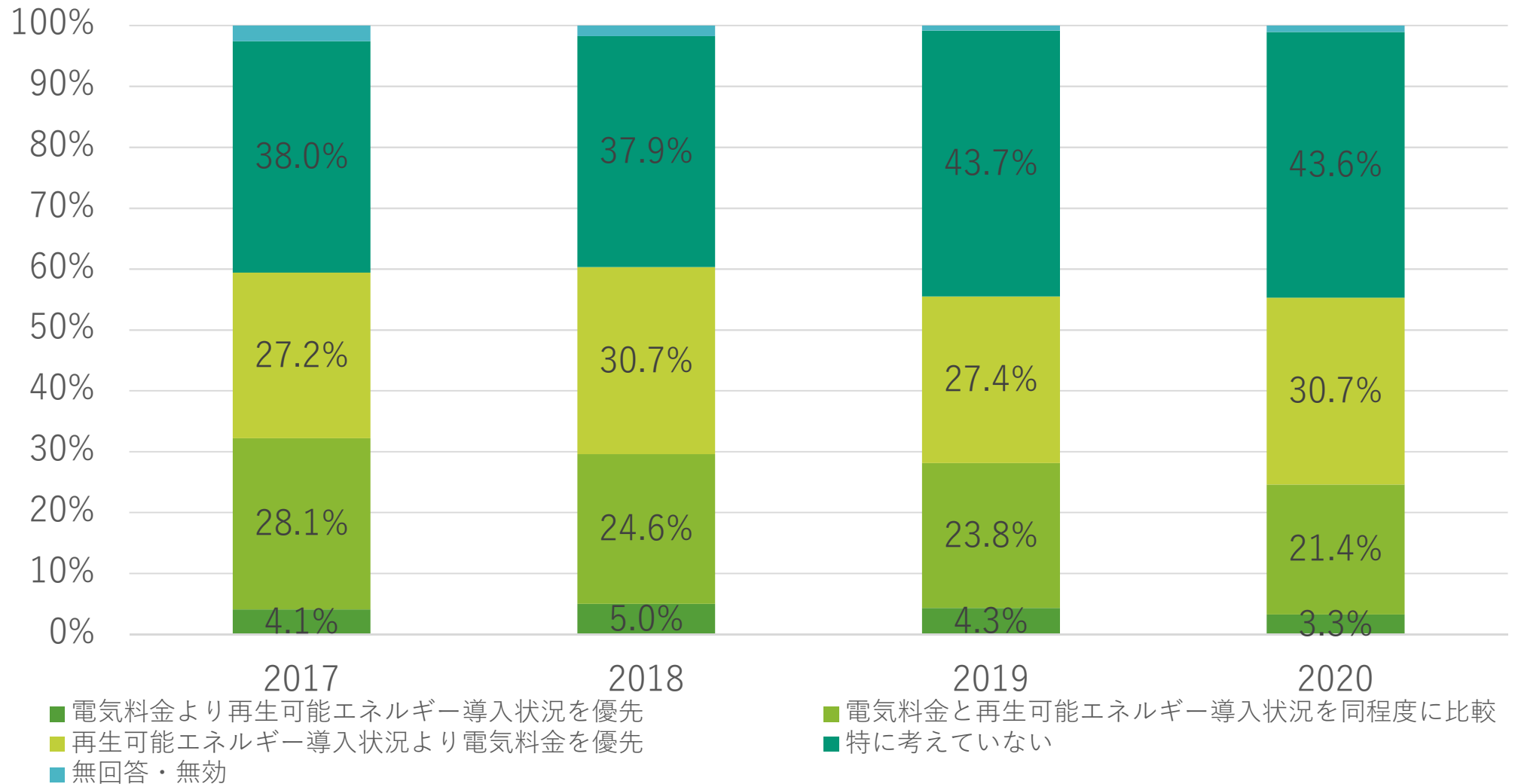
問 家庭の照明はどの程度LED化されていますか。



「5割」以上LED化されている家庭はおよそ半分程度で、変化はありません。

4.5 市民アンケート調査結果（電力会社の再エネ導入に対する認識）

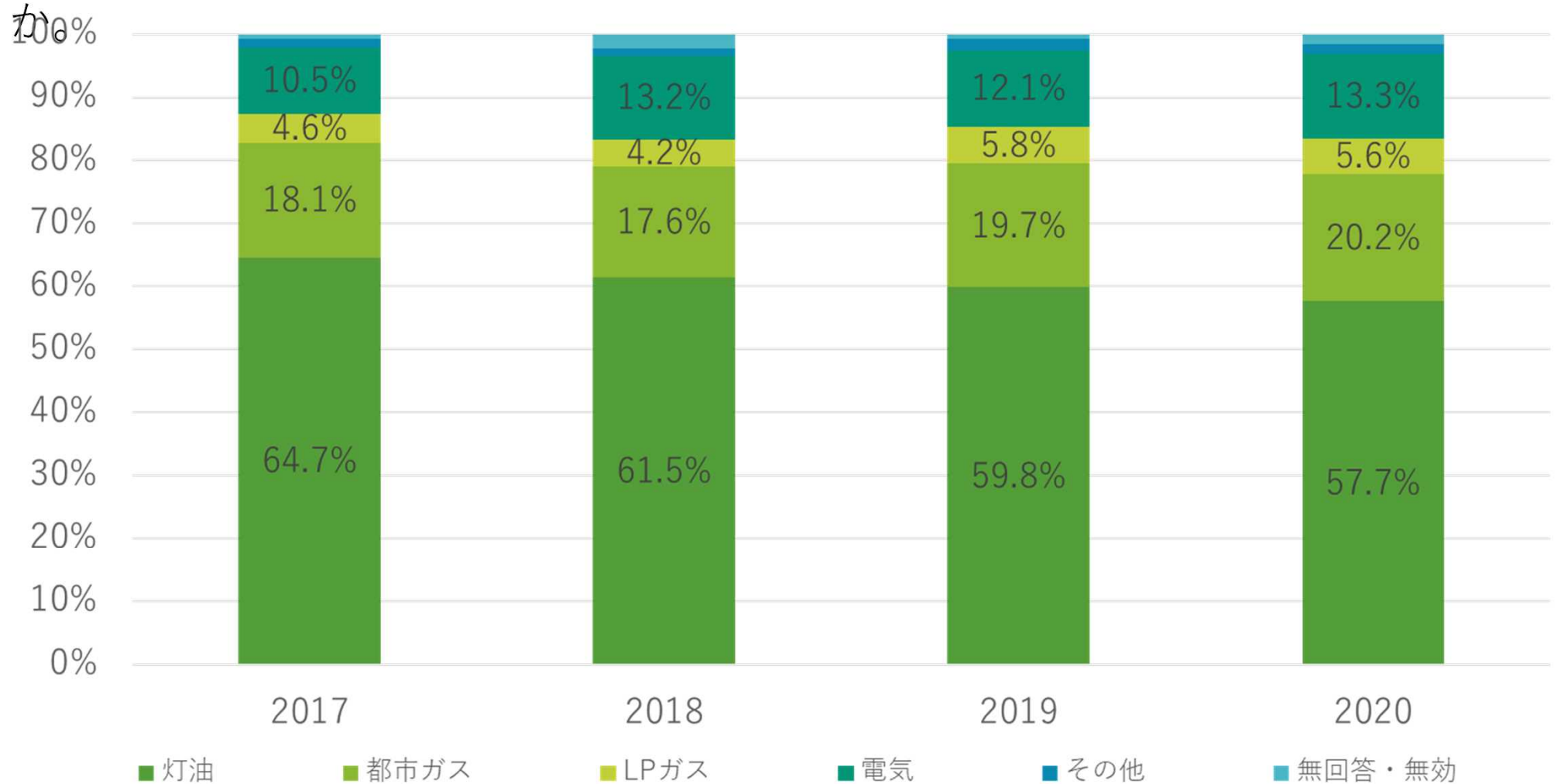
問 電力会社を選ぶとき、再生可能エネルギーの導入状況を優先しますか。



「特に考えていない」が4割程度と変化はありません。

4.6 市民アンケート調査結果（暖房で使用しているエネルギー・燃料）

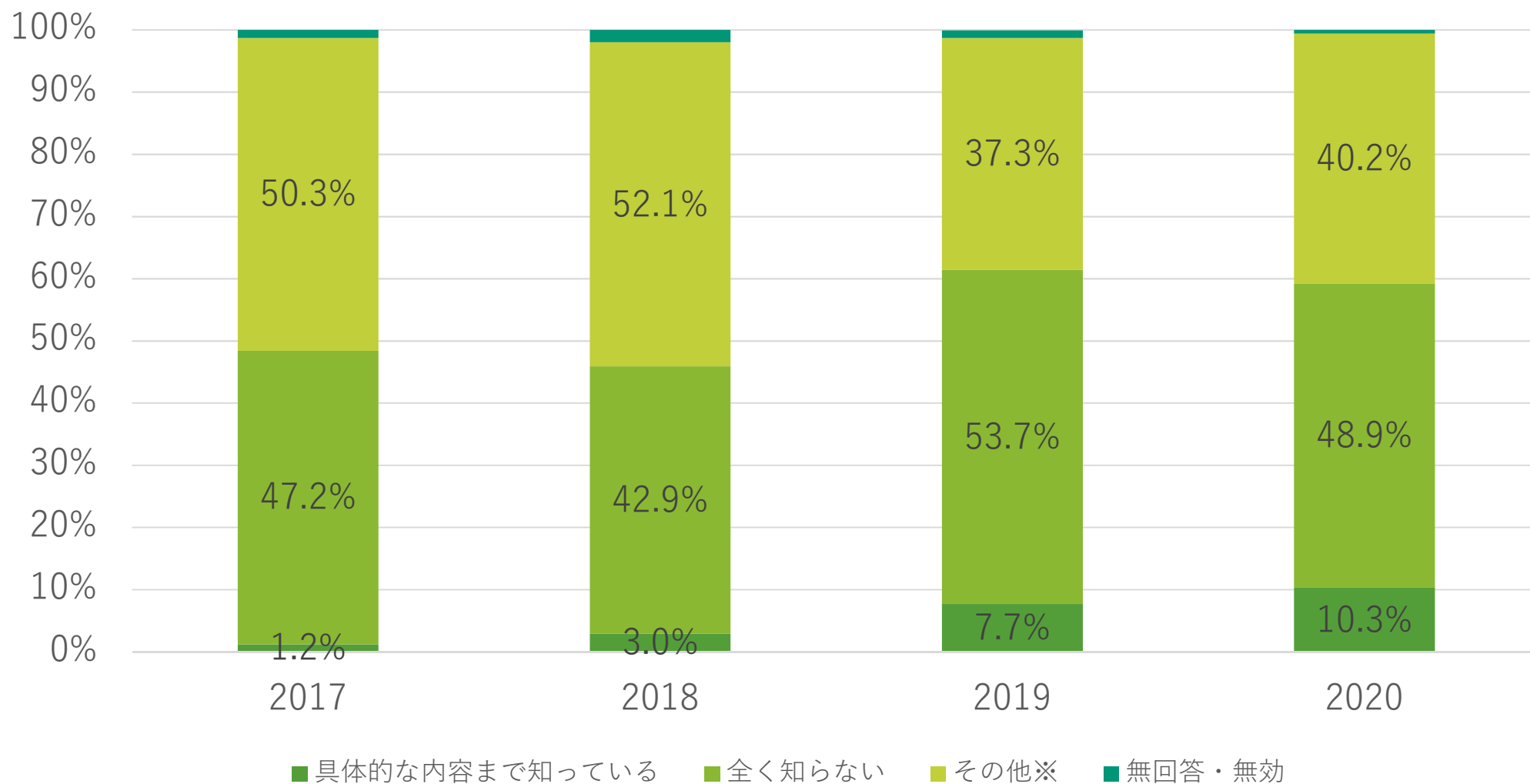
問 あなたの家庭では暖房にどのようなエネルギー・燃料を使用していますか



「灯油」が減少傾向、「ガス」は増加傾向、「電気」は横ばいとなっています。

4.7 市民アンケート調査結果（SDGsの認知度）

問 あなたはSDGsについて知っていますか。



「具体的な内容まで知っている」は増加傾向。一方、「全く知らない」が5割程度です。

※ 「SDGs」という言葉は知っている、ロゴマークを見たことがあるなど

4.8 市民アンケート調査結果（まとめ）

- 市民の多くが地球温暖化による気候変動を「身近な問題」と感じています。
- 市民の多くが温暖化や気候変動の進行を食い止めるために、「自身の暮らしや習慣を変えていかなければならない」と思っています。
- 照明のLED化率、電気の選択における再生可能エネルギー導入状況の優先度合いなどは向上が見られず、具体的な行動にはあまり結びついていないことが推測されます。
- 暖房については、灯油からガスへの転換が進んでいます。
- SDGsの具体的な内容が認知されるようになってきている一方で、全く認知されていない方も多く、全体の底上げは進んでいないことが推測されます。